

## 地域交流スポット「リュッダのいちぐう」とは

地域交流スポット「リュッダのいちぐう」は、家庭でも職場でも学校でもない、子どもからお年寄りまで、元気な方もそうでない方も、誰でもが自由に訪れ、気軽に過ごせる第3の居場所です。

「リュッダのいちぐう」は狭い空間ですが、【静かな空間】と【動きのある空間】の二つの要素をイメージしています。

### 【静かな空間】

他人に気兼ねなくゆったりと過ごしたい方、コミュニケーションをとることがあまり得意でない方、自宅からなかなか出る機会のない方などに、自分の居場所としていただきたい空間です。

・1人～4人用の椅子とテーブルを4セット配置しています。

いつでもドリップできるように、挽いたコーヒー豆とお湯、ドリッパーとポットがセットされています。

コーヒーが苦手な方には緑茶や紅茶も用意しています。自由に淹れてお飲みください。

・飲み物代は特に設定していません。貯金箱を置いてありますので、0（ゼロ）円から100円の範囲内でお気持ちを入れていただけます。0円もお気持ちです。

・壁一面に「アート」を展示します。油彩画同人の作品のほか、公立美術大学や栗田特別支援学校にもお声がけし出展していただく予定です。

「アート」は心に落ち着きや豊かさをもたらしてくれます。その力をお借りしたいと思います。

・スタッフがお薦めの選書も少し並べたいと思います。

気軽に手に取ることができて、少しは何かのお役に立てそうなものを、独断で選ばせてもらうことにします。

本を通じて、人と人がつながってくればさらにうれしいことです。



### 【動きのある空間】

誰でも気軽に参加できる交流の場です。人との関りを楽しむことで、元氣になっていただく場所をイメージしています。

・少し大きめのテーブルと椅子を10脚程度配置しています。

何人かでおしゃべりをしたり、将棋をしたり、何か創作してみたり、いろんなことを自由に試してみてください。

・家庭用ですがキッチンも備えています。お鍋やフライパン、食器や調味料なども準備しておきますので、材料を持ち寄って自由に調理してください。楽しんだら、後片づけだけはよろしくお願いします。

・ワンズライフの介護予防運動を卒業した方々も、自由に立ち寄ってセルフケアの進行状況や近況を教えてください。

スタッフから、ワンポイントでの助言や励ましも受けることができます。卒業した方が何人か集まれば、自主活動グループができるかもしれません。休日なら運動場所も提供させていただきます。運が良ければスタッフが顔を出すかもしれません。

・ピアノも置いています。どなたでも気軽に立ち寄って弾いてみてください。子どもさんの練習用として使っていただいても構いません。

同じフロアには、リハビリや介護予防運動を頑張っているお年寄りがたくさんいらっしゃいます。

きっと喜んでくれると思います。「リュッダのピアノ」とでも呼んで親しんでいただければ幸いです。

・福祉や健康に関する情報コーナーも一面に設けています。

パンフレットなど、設置のご希望があればご相談ください。



\*地域交流スポットは、運動エリア、駐車場も含めて、お申し出があればスペースシェアとしても開放する予定です。休日など、集会や催しものなどにもご使用ください。

\*「リュッダのいちぐう」の使用ルールは一つだけ。

「人の嫌がることはしないこと。」それだけです。

\*地域交流スポットは、地域の方々の居場所、活動の場としてだけでなく、世代や障がいの垣根を超えて、福祉と生きがいに寄り添い続ける「いちぐう」でありたいと考えています。どなたでもご利用ください。

## 【リュツダのいちぐう―名前の由来―】

「リュツダのいちぐう」の「リュツダ」は、ヘブライ語で「悩みを溶かす」という意味があるそうです。

ドイツの西部郊外に「ベーター」という著名な福祉と医療の町があります。

病院や特別支援学校、高齢者や障がい者の施設のほか、工芸や織物、農作業から切手コレクションの作業所まで二千種類以上に及ぶ幅広い職業訓練の場を備え、障害のある人もない人も、高齢の地元住民でも、それぞれ自立しながら安心して暮らすことのできるシステムを備えた町です。

第二次世界大戦中には、弱者や少数者を切り捨てるヒトラーの迫害から多くの病人や障がい者を守るなど、百五十年以上にわたり、幾多の困難の歴史を乗り越えてきた町でもあります。

そんなベーターの町なかに「芸術家の家リュツダ」と呼ばれるアトリエがあって、アーティストの作品展示のほか、子どもたちやお年寄り、障がいのある人もない人も参加できる、様々な人たちと協働するワークショップが数多く行われています。

そこでは著名なアーティストの作品のとなりに、障がいのある人の作品や子ども作品も一緒に飾られていてワークショップもありません。それがあたりまえの「芸術家の家リュツダ」です。

「リュツダ」という名前はそこからいただきました。

「世代や障がいの垣根を超えたその人らしい生き方の創出支援」という私どもの理念に、ぴったりと寄り添ってくれます。

ちなみに「いちぐう」は、「出会い」の「一遇」と「片すみ」の「一隅」を意味しています。「リュツダのいちぐう」という「片すみ」で、人や作品と「出会い」、悩みを溶かしていただければ幸いです。